

うましむら新聞 春の口



2019年春発行
馬路村農協

馬路村中学校の新三年生の笹岡ゆうすです。
お父ちゃんは農協で働きながら、ゆずをつくっています。
最近の嬉しかったことは、お兄ちゃんが村に帰ってきてくれたことです。

じょう君、ありがとう。
街へ行っても、
たまには村に帰って
きいよ。

最後の一年は、村の皆が
応援してくれる野球を
一生懸命頑張って、
ほんで、遊びも頑張って
じょう君みたいな
お兄ちゃんになりたい
と思います。

今まで、「こ上のじょう君と遊んでいましたが、今年の春から
街の高校へ出て行くので、僕が一番上になって、下のもんから
したらお兄ちゃんになります。じょう君ほどは、アメゴや鮎の
突き方も上手くないけれど、下のもんに教えちゃれるぐらい
今年の夏は川に通って鍛えたいと思います。一番のお兄ちゃん
ですから。僕もあと二年
で、この村を出ていく
ことになると思うけど
しょうがないがです。
村ですから。
最後の一年は、村の皆が
応援してくれる野球を
一生懸命頑張って、
ほんで、遊びも頑張って
じょう君みたいな
お兄ちゃんになりたい
と思います。



せまい田じゃ
苦い草も
多いけん
といねえ
自分で
食べるもんは

自分でつくる、がモットーの
馬路村では、5月の苗配りに
向けて田んぼおこしが春から
はじまります。せまい田んぼで
は機械が入らないところも
しばしば。手間もかかりますが
昔からの風景を残しながら、
「自然な形で暮らしています。
そうするしかない、とも言える
かもしれない。今年もまた、
良いお米がとれますように。」

「こーんなの
いっつも
話。」



春になると、
やつぱり変わら
おんちゃんたち
間では川の話が
アメゴ漁も解禁
鮎やウナギへの
飲み場になり、「ど
を捕まえたこと
なんてうっかり
「こーんなのが
「手首を越える
「いやあ、もつ
と、手を突き出
語り出し、飲み
いつも聞いている
その都度嬉しそ
見ると、ワクワク

アイスが
無い

ある日、農協Aコープで
アイスクリームが
街のように近く
わけではなく、こ
とっては大事
村民がそんな
ので、当然販
業者からしても
くる手間はか
自分達で街か
車がないと運
採算ベースで
ないがアイス
村の中では「ど
と、おんちゃん
たかがアイス、
子どもが「アイ
言ったときに、
できないのは一
街では簡単に
この村でも守
必死に考える
最終的には何
アイスのある
ですが、村の中
この「ホット
立ち話のネタ



こまいむら
馬路村への道
高知市から室戸方面に約51km
国道55号線を太平洋沿いに
進むと安田町へ入る。
そして左に大きい魚が見えてきたら
左へ曲り、安田川沿いを
くわくわく上る。
県道12号線を通る事、20km。
約30分、ようやく馬路村に
着きます。
ようこそ、馬路村!

日々馬路村
ホームページ
www.yuzu.or.jp

馬路温泉
ツルツルのお湯です。
ゆっくりすこしにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026



3月をもって、今年のイノシシの追い山猟は
いったんおしまい。イノシシが捕れた日の宴会も、
おすそわけのシシ肉も、少しの間お休みです。
シシが山におらんおらんと言いながらも
そこは流石の腕前、今年結構捕れた
んじゃないでしょうか。
自然に感謝。ありがとうございます。
さあ、追い山猟の再開は11月。
早くも秋が待ち遠しいですね。

春の畑 じょうんな じょうんな



草刈り

春になると、あちらこちらで競い合うように
雑草との格闘もまた、はじまります。村の中では
乗用の草刈り機が入れる畑はほとんど無いため
もっぱらこの刈りばらい機で少しずつ刈って
いくのが主流です。一日この草刈り作業を
するのは中々大変で、おんちゃんたちの
エネルギー源となっているのは、
「隣の畑に迷惑はかけられん」という
考え方。草をぼうぼうにしておいたら
みつもまないというのと同時に、
害虫などの発生源となってしまう
隣の畑に迷惑がかかるかもしれ
ないという思いが強く、自分の
ためというより周りのために
汗をかきながら頑張って
いる姿を見かけます。
都会では隣近所との
関係性が希薄だと
最近よく聞きます。
「農」がその役割を
担っているのかも
しれま
せん。



みなさん、こんにちは。
ゆず農家の山西洋一です。
みんなからは
「ようちゃん」と呼ばれて
いますが、
一応、ゆず部会
の部長をやらせてもらっています。
今日は春の畑作業の中でも、
「ゆずの植え付け」について、ちょこっとお話し
させてもらいます。

そもそも、「植え付け」とは新しく畑をかまえて
ゆずの苗を植える作業の事で、高齢の木や
弱ってしまった木を植えかえるのもそうです。
ゆずは種から育てると、実がなるまでに十八年かかる
と言われていますので接ぎ木苗を使うのが一般的で、
村では寒さが収まった3月20日ごろが植え付けの
ベストタイミングだと思います。

植え付けまでの準備も大変ですが、植えてからが
ホントに大変で、とにかく根を乾燥させないように、とか
根を四方に広げ土とよく接触できるように、とか
主幹が真つすぐになるように、とかとにかく手間がかかりますね。
愛情がないとできない作業で、子どもを育てるようなもんながです。
特に馬路村の場合は、昼夜の寒暖差や日照時間の少なさなど
過酷な環境にあるため、苗の生育には常に苦労が耐えませんが
接ぎ木苗を植えてから収穫できるようになるまで4~5年かかります。
その間も肥料を月一回やり、シカやウサギなどに食べられてしまわないよう
対策も欠かせません。植え付けは「コツコツ」が大切なんです。
次回の新聞、またお話ができれば、シカ・ウサギ・カミキリムシ
の対策についてお話ししますね。



イノシシ捕も あまりました。 今年もあじがとげ。

地域を かたむく かなでちゃん



都会から移り住み、この村の中で地域おこし協力隊として働いています。
かなでちゃんの仕事は剪定したゆずの木の枝から木工品をつくること。
この時期、剪定した後のいらぬ枝に目をつけ、畑をまわっては
「その枝ちょうだい」とお願いしています。その着眼点もさることながら、
木工品の出来映えに
村のおんちゃんたちも
目を見張るほど。
かなでちゃんの
袖子のスプーン

おそらく、街でオシャレな生き方をしたいであろう村外の若者が
村に住んでくれ、「馬路村とは？」を一生懸命考えてくれていることが、
僕たちにとっては、ほんとうにありがたい事だなあと思っています。
地域おこし協力隊、今現在馬路村には6人が来て来てくれています。
田舎に興味のある方は、役場まで聞いてみてください。
馬路村役場地方創生課 0887-44-2277迄

馬路村は除草剤を使いませんので、春から秋の収穫まで、この草刈りも結構作業が大変ながです。



曲辰協 自慢の 木質 肥料

馬路村ゆず栽培において
大事なものは、まづくり。
有機質の肥料を畑に入れ
土にしっかりと蓄えらせ、
ふかふかの土をつくる
いくことを目標としています。
村の製材所から出る木の皮を
粉碎し、ゆず皮残渣と
鶏糞、石灰を混ぜ合わせ
自分たちでゆずの肥料を
つくっています。
農協の堆肥場ではこの時期、
朝になると発酵の煙が立ち上り
えい肥料ができてくるのを
知らせてくれます。

春の村の ニと

村の春は
ぼうっと
窓の外を
眺めるのに
最適な季節。
トンビの声を
聞きながら、
どこを見る訳でも
なく、風景を眺め
川の対岸からはふとんを叩く音が
ゆつくりと
風につけて聞こえてきます。

